



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.364
2025.8.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【浅黄(うすき)】淡い黄色。

平安時代の延喜式に染め方が記されている古い色名。当時の読み方は「あさぎ」。薄い藍色を指す浅葱色(あさぎいろ)との混同を避けるため江戸時代にこの読み方が定着した。染色に用いる蒅安の量によって濃淡が変わり、薄いものが浅黄、濃いものが深黄。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「地域創造フェスティバル2025 in 茅ヶ崎」報告

財団からのお知らせ..... 4

市町村長特別セミナー「地域経営塾」募集開始 / 地域創造YouTubeチャンネルのご案内 / 令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業 / 長野県」スタート / 令和7年度「地域創造セミナー」スタート / 令和7年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

今月の情報..... 6

地域通信 / 特集 アートプロジェクト・芸術祭

今月のレポート..... 12

和歌山県和歌山市 和歌山県立近代美術館
「なつやすみの美術館15 美術の歴史と歴史の美術」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

今年も東京から舞台を移して開催

地域創造フェスティバル2025 in 茅ヶ崎 報告

2025年8月4日～6日



写真左上: シンポジウム「みんなで考える文化芸術のアクセシビリティ」

右上: おんかつ支援プレゼンテーション
山本奈央さん(オカリナ)

左下: おんかつ支援プレゼンテーション
Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)

右下: ダン活プレゼンテーション
Von'noズ

●地域創造フェスティバル

公立文化施設や地方公共団体が事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的に、地域創造が開催。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティスト、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストによる実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を実施。多数のアーティストや全国の文化施設・地方公共団体関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。

* 地域創造による「2024年度地域の公立文化施設実態調査」では、障がい者に関わる取り組みを実施している施設は、施設利用のための環境整備を含めると3,478施設中61.7%だった。

多くのアーティスト・公立文化施設・地方公共団体職員の交流の場となっている地域創造フェスティバルが8月4日から6日まで茅ヶ崎市民文化会館で開催されました。おんかつ支援登録アーティスト54組によるプレゼンテーションやシンポジウム、地域創造の事業説明会に加え、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)登録アーティスト7組による公開プレゼンテーションが行われる令和8年度ダン活全体研修会、都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議も同時開催され、活気に溢れたフェスティバルとなりました。

●シンポジウムのテーマはアクセシビリティ

今回のシンポジウムでは「みんなで考える文化芸術のアクセシビリティ」と題して、公立ホール、福祉現場、アート現場で意欲的な実践を行っているキーパーソンをパネリストに招き、事例紹介と意見交換が行われました。

まず、モデレーターの吉本光宏さんが令和5年度版「障害者白書」(内閣府)から、身体障害・知的障害・精神障害の3区分をまとめると、単純な合計とは言えないものの、国民のおよそ9.2%が何らかの障がいを有しているという現

状を投げかけ。パネリストの大澤寅雄さんが令和6年度「障害者文化芸術活動推進に向けた劇場・音楽堂等取組状況調査報告書」(全国公立文化施設協会)から、職員の研修状況(回答があった1,439施設中62.4%が研修を実施したことがない)、障がい者に配慮または対象とした事業の取り組みを実施したことがあると回答した443施設中82.8%が他の組織等と連携している、といった状況について情報共有が行われました(*)。

続いて、障がいの有無にかかわらずさまざまな人と活動する地域のダンスチームと協働した事業や、聴覚・視覚障がい者への鑑賞サポートなどを実施している荘銀タクト鶴岡の伊藤玲子さん、障害者差別解消法制定をきっかけに講座を実施し、2019年からの「インクルーシブ・シアタープロジェクト」の糸口をつくった、しまね文化振興財団の福間一さん、障がいのある人の拠点として福祉とアートの領域で先駆的な取り組みをしているたんぼぼの家の佐藤拓道さん、アール・ブリュットを中心に紹介するほか、障がい者の文化芸術活動をサポートしている小さな美術館・薬工ミュージアムの松本志帆さんがそれぞれの取り組みを紹介

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

しました。

パネルディスカッションでは、「思い込みを捨てて、まずはやってみる」「当事者との関係をつくっていくこと」「上手くいかないことがどうすればできるようになるか、私たちが見ている世界をどうすれば見えてもらえるようになるのかではなく、障がいのある人が見ている世界を知ること、彼らが見ている世界を通して見ること」「地域における分野を横断したネットワークが必要」といった視点が話し合われました。

「まずは出会い、繋がり、知ることが大切だ」と思い、ダイバーシティいわみ事業として『まちと福祉と芸術文化についてのオープンミーティング』を継続している。劇場の力と地域の力の総和で取り組むべきだと感じている」という福岡さんの言葉に、参加者たちは大きくうなづいていました。

●アーティスト計61組がプレゼンテーション

おんかつ支援の登録アーティストは、現在、計116組に上ります。今回のフェスティバルでは、その中から、今回参加可能で登録年度の若い54組が参加しました。特徴的だったのが、藤重奈那子さん(箏・地歌三味線・十七絃)、Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)、安嶋三保子さん(箏・十七絃)、森梓紗さん(箏)、大萩康喜さん(尺八)、棚原健太さん(歌三線)という邦楽演奏家6組がプレゼンに参加したことです。地域創造では令和元年度から公共ホール邦楽活性化事業に取り組み、令和4年度からオーディションによる登録演奏家制度をスタート。今年度のフェスティバルにはその支援演奏家も参加しました。

東京藝術大学大学院に所属していたときから工夫を凝らした邦楽普及事業に取り組んできた藤重さん、沖縄の人々の日常に欠かせない地域の文化として琉球音階(5音階)などの特徴をもつ琉球古典音楽を紹介した棚原さん、『鶴の巣籠』の見事な演奏で尺八の魅力を披露した大萩さん、北原白秋の詩に沢井忠夫が曲を付けた『ゆるる秋』を真っ直ぐな声で弾き歌いした安嶋さん、後世に残す価値のあるものと

して楽器や奏法の特徴などを紹介するとともに現代曲を取り上げたDual KOTO×KOTO、そして箏との珍しいデュオで箏の新たな魅力を伝えた森さんと、改めて邦楽の魅力を発見したプレゼンとなりました。

作曲家への委嘱などを通して、箏曲の新しい展開を志している森さんは、「馴染みのない人にも音の楽しさとして現代曲が届けられるのではと思っている。MCなど届け方を工夫し、心づもりをしてもらえればきちんと届けし、知らないからこそ純粋な思いで音に耳を傾けてもらえると感じている。幼児対象のアウトリーチではオノマトペを箏の音で楽しんでもらうアウトリーチも行った」と言い、箏にないものをすべてもっている箏とのコラボレーションは今後も続けていきたいと話していました。

また、ダン活全体研修会において行われた2025・2026年度登録アーティストによる公開プレゼンには黒須育海さん、Von・noz、橋本真那さん、康本雅子さん、岩淵貞太さん、浅井信好さん、井田亜彩実さんが登場し、それぞれのパフォーマンスを披露するとともに、参加者とのコミュニケーションを大切にしたいワークショップを展開しました。

トップバッターの黒須さんは、茅ヶ崎の海のイメージや参加者の趣味などから短い作品を創作し、最後に照明も入れて参加者と共に発表しました。大学時代の同級生2人が結成したVon・nozはコミュニケーションワークや自分たちの創作方法であるペアワークを、道具を使って参加者と体験。また、現役の大学院生である橋本さんは言葉にしづらい思いを身体で表現するワークを行い、参加者のアイデアを引き出しました。各アーティストの個性豊かなプレゼンにより、身体表現の幅広いアプローチを体験する時間となりました。

※

来年度は、7月28日、29日の2日間、東京芸術劇場にて開催予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。詳細は次年度の地域創造ライターや財団ホームページにてお知らせします。

●地域創造フェスティバル2025 in 茅ヶ崎
プログラム概要

【1日目(8月4日)】

◎おんかつ支援プレゼンテーション
(練習室1・2 ※各日同じ会場で実施)
【ピアノ】今田篤、高橋ドレミ、田村緑 【弦楽器】神谷未穂、早稲田桜子(ヴァイオリン) / 海野幹雄、奥田なな子、加藤文枝(チェロ) 【管楽器】田村真寛(サクソフォン) 【声楽】上田純子(ソプラノ) / 糸賀修平(テノール) / ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) 【打楽器】大熊理津子(マリンバ) / 野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) 【邦楽】藤重奈那子(箏・地歌三味線・十七絃) 【その他】松尾俊介(クラシック・ギター) 【アンサンブル】Quintet H(木管五重奏) / BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)

【2日目(8月5日)】

◎シンポジウム「みんなで考える文化芸術のアクセシビリティ」(小ホール)
吉本光宏・大澤寅雄(文化コモンズ研究所)、伊藤玲子(荘銀タクト鶴岡)、福岡一(しまね文化振興財団)、佐藤拓道(たんぼぼの家アートセンター HANA)、松本志帆(薫工ミュージアム/NPO蛸蔵)

◎おんかつ支援プレゼンテーション

【ピアノ】新崎誠実、岩崎海奈 【弦楽器】北島佳奈、高橋和歌(ヴァイオリン) 【管楽器】森岡有裕子(フルート) / 大石将紀、田中拓也(サクソフォン) / 高見信行(トランペット) / 喜名雅(チューバ) 【声楽】大森智子、乗松恵美(ソプラノ) 【邦楽】安嶋三保子(箏・十七絃) 【その他】福島青衣子(ハープ) 【アンサンブル】デュエットウ カナエ&ゆかり(ピアノデュオ) / Dual KOTO×KOTO(箏デュオ) / アーバンサクソフォンカルテット、Quatuor B, Modéto Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)

◎ダン活プレゼンテーション(大ホール)

黒須育海、Von・noz、橋本真那、康本雅子、岩淵貞太、浅井信好、井田亜彩実

【3日目(8月6日)】

◎助成・事業説明会(大会議室)

◎事業個別相談会(第2会議室)

◎おんかつ支援プレゼンテーション

【ピアノ】新居由佳梨、酒井有彩、中野翔太 【弦楽器】石上真由子、瀧村依里(ヴァイオリン) 【管楽器】荒川洋、吉岡次郎(フルート) / 加藤直明(トロンボーン) 【声楽】梅津碧(ソプラノ) 【打楽器】塚越慎子(マリンバ) / 新野将之(パーカッション・マリンバ) 【邦楽】森梓紗(箏) / 大萩康喜(尺八) / 棚原健太(歌三線) 【その他】山本奈央(オカリナ) 【アンサンブル】泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター) / Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏) / Buzz Five(金管五重奏)

*都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(8月5日・大会議室)

*各日、来場者が交流する「情報交換会」を開催(大ホールホワイエ)

財団からのお知らせ

●全国市町村国際文化研修所(JIAM) 「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の 募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているものです。

セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、山本麻友美さん(京都芸術センター副館長)による講演「文化がつくる好循環—アート×ビジネス推進事業から見えてきたこと—」を予定しています。また、地域創造の登録アーティスト・梅津碧さん(ソプラノ)によるミニコンサート

トでは、地域創造の事業で行っているような、生の音楽の素晴らしさや楽しさを多くの人たちに届けるアウトリーチを体験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

●地域創造YouTubeチャンネルのご案内

各事業の様様を当財団公式YouTubeチャンネルで公開しています。今後の事業の参考に、ぜひご覧ください。



●令和7・8年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業／長野県」がスタート

本事業は、県および市町村等の公共ホールが共同・連携して、複数ジャンルのアーティスト(クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇等)を市町村に派遣します。1年目はアウトリーチによる地域交流プログラムを実施、2年目は新たな作品を制作して公演をする2カ年事業となっています。

今回は、長野県出身のアーティスト3名、横山彰乃さん(ダンサー・振付家)、海沼優衣さん(パーカッション・マリンバ)、外山賀野さん(チェロ)が選ばれました。12月に小・中学生を対象にしたアウトリーチを小布施町、松川村、中川村で行う予定です。実施に先立ち、県、文化振興事業団、参加3町村およびアーティストが集まり2週間をかけたプログラムづくりが行われました。

まずは、アウトリーチを知るために、各アーティストによる模擬プレゼンを参加者全員で体験。打楽器とチェロの演奏を間近で聴き、音の振動を体験しました。ダンスでは、普段は意識することのない身体の一部に意識を向けた動きや、他者とのコミュニケーションを通じた表現など、さまざまなアプローチが試みられました。アーティストがどのようにプレゼンを組み立てたのかを理解する良き機会になりました。

翌日からは、地域資源を生かしたプログラムを制作するために、アウトリーチ実施先町村をリサーチ。松川村では、ちひろ美術館を見学した後、すずの音ホールにて正調安曇節を鑑賞し、保存協会の皆さんから踊り方を教わりました。中川村では、

NVサウンドホールにて村を拠点に活動しているサブニュマ(アフリカンドラム&ダンス)の練習風景を見学。その後、陣馬形山を散策して伊那谷と広大なアルプスの景色を眺めました。小布施町では、北斎館・高井鴻山記念館・岩松院を巡り信州の歴史にふれることができました。長野県出身のアーティストたちにとっても、地域ごとの多様な歴史や文化、風土にふれるなかで、新たな発見が多かったようで、創作への意欲がさらに高まりました。

リサーチ後は対話を重ね、演奏やダンスの動きを実際に試してプログラムを形にしていきました。楽器の魅力を伝えることを大切にしつつ、「見る時間」と「参加する時間」のバランスにも工夫を重ね、長野らしさを取り入れた構成が完成。アーティストからは、「楽器演奏を間近で聴いて、音楽に興味をもつきっかけになってほしい」「ダンスに正解はなく、体のつくりによって動きが異なるので、それぞれの個性が素敵だと感じてほしい」といった声がありました。



プログラムづくりの様子

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)
「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」
【研修日程】2025年11月4日(火)、5日(水)
【会場】全国市町村国際文化研修所
(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1
【申込締切】9月26日(金)
【主催・問い合わせ】
(公財)全国市町村研修財団 全国市町村
国際文化研修所(JIAM)教務部
Tel. 077-578-5932

●地域創造YouTubeチャンネルに関する
問い合わせ
芸術環境部 伊藤
Tel. 03-5573-4093

●公共ホール創造ネットワークモデル事業
に関する問い合わせ
芸術環境部 渡邊・今野
Tel. 03-5573-4060

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和7年度「地域創造セミナー」スタート

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり、また、文化・芸術関係者の広域的な連携強化を目的とした研修会に地域創造が講師の派遣等による支援を行う地域創造セミナー。

今年度の1回目は7月11日に東京エレクトロンホール宮城にて開催しました。講師に岩手県文化芸術コーディネーター、宮古市民文化会館プロデューサーである坂田雄平さんをお迎えし、「文化施設の現状」や「担い手の再考」をテーマとした講義や講師の坂田さんが取り組む岩手県での事例紹介と、参加者によるグループワークを実施しました。グループワークでは、宮城県内の自治体や施設職員が各地域と施設における「いま」を再認識し、その中で自分たちが起こすことができる「ワンアクション」は何か、意見交換を行いました。

2回目は7月30日に、秋田地方総合庁舎にて、プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院教員の若林朋子さんを講師に実施しました。「秋田の『これまで』と『これから』を文化でつなぐ」というテーマの講演では、日本で最も早く文

化振興条例を制定した秋田市など、全国に先駆けて展開してきた県内の諸事例から、改めて秋田県の可能性を知るとともに、文化や芸術、郷土芸能が他分野の領域とも積極的に繋げることができ、社会に新たな価値をもたらすことを再認識する機会となりました。また、後半は秋田県内の各市町村の課題を共有し、今後の連携体制の強化を目指すために必要なことは何か、グループワークを行いました。

今年度の地域創造セミナーは、三重県、千葉県でも開催を予定しています。



地域創造セミナー宮城県の様子(講師:坂田雄平氏)

●地域創造セミナーに関する問い合わせ
芸術環境部 中嶋
Tel. 03-5573-4066

●令和7年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体
(主会場/アーティスト/日程)

◎Aプログラム

- 宮崎県都城市(都城市総合文化ホール/康本雅子/8月20日~23日)
- 熊本県宇土市(宇土市民会館/岩淵貞太/9月10日~13日)
- 熊本県天草市(天草市民センター/Von・noz/9月17日~20日)
- 島根県安来市(安来市総合文化ホールアルテピア/康本雅子/10月23日~26日)
- 神奈川県座間市(座間市立市民体育館/橋本真那/11月26日、29日)
- 福島県いわき市(いわき芸術文化交流館アリオス/浅井信好/12月17日~20日)

◎Bプログラム

- 千葉県市川市(市川市文化会館/井田亜彩実/2026年1月23日~25日、2月17日~22日)

◎Cプログラム

- 静岡県菊川市(菊川文化会館アエル/井田亜彩実/7月10日~13日)
- 茨城県日立市(日立シビックセンター/黒須育海/8月21日~24日)
- 京都府(京都府立けいはんなホール/浅井信好/10月1日~4日)
- 沖縄県名護市(名護市民会館/黒須育海/12月4日~7日)

◎問い合わせ

芸術環境部 波多野・永田
Tel. 03-5573-4075・4077
dankatsu@jafra.or.jp

●令和7年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパトリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度の実施団体は11団体(右欄参照)。7月から各地で事業がスタートしています。

菊川市(菊川文化会館アエル)では、令和5年度のAプログラム、6年度のBプログラムに引き続き、アーティストに井田亜彩実さんを迎えCプログラムを実施。井田さんのソロ作品とグループ作品をダブルビルで上演しました。

菊川市はブラジル人をはじめとした外国人移住者が多いこともあり、担当者の小林涼子さんは、「多文化共生」をテーマに掲げて事業に取り組んできました。1年目は発達障がいのある多国籍の子どもたちやブラジル人を対象にしたアウトリーチを実施。2年目の市民参加公演でもブラジル人学校の生徒たちに映像出演してもらったほか、チラシのメインビジュアルに地域の知的障がい者の就労支援団体から提供いただいたイラストを使用するなど、それまで関わりのなかった方にもホールに親しみをもってもらえるよう尽力しました。

多岐にわたる団体との調整や、外国人の方々と

の文化や価値観の違いに苦労もありましたが、今回のワークショップや公演には2年間のダン活で繋がりができた方が多く来場されました。また、公演の最後に実施したアフタートークでは作品について深掘りするとともに、3年間の取り組みと担当者としての思いを来場者に伝えました。

アンケートには公演の感想のほか、ホールの取り組みへの評価やスタッフに対する感謝のコメントも寄せられ、これまでの活動を経て着実に地域の文化拠点として根づいている様子が伺えました。

これから実施予定の団体も、工夫を凝らしたプログラムを企画しています。ぜひ、お近くで行われるダン活の取り組みにご注目ください。



公募ワークショップの様子(Cプログラム/菊川文化会館アエル/アーティスト:井田亜彩実)

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 伊藤・中嶋

●2025年11月号情報締切
9月17日(水)

●2025年11月号掲載対象情報
2025年11月～26年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4-12
Tel. 011-642-5709 梅村尚幸
<http://hongoshin-smos.jp/>

没後50年 山内壮夫展

新制作協会彫刻部や全道展の創設に関わり、各地にモニュメントを残した北海道出身の彫刻家・山内壮夫(1907～75)の没後50年を記念する札幌初の回顧展。山内の業績を体系的にまとめ、60点以上の作品を展示するほか、山内が熱心に取り組んだ「建築と彫刻の協働」に関する研究成果を踏まえ、都市空間や建築と共鳴する山内芸術の魅力が多角的に紹介する。
[日程]6月14日～9月28日
[会場]本郷新記念札幌彫刻美術館



山内壮夫《碑Ⅱ》(1967年/中原梯二郎記念旭川市彫刻美術館蔵)

●青森県八戸市

八戸ポータルミュージアムはっち
〒031-0032 八戸市三日町11-1
Tel. 0178-22-8228 高升梨帆
<https://hacchi.jp/>

盆踊りディスコ

共生社会創出プロジェクトのひとつとして昨年スタートした盆踊りイベント。「はっち音頭」を創作した泉彩葉(日本舞踊泉流彩葉会)と、八戸を拠点に活動するヒップホップダンサーのRINKA(ONE MOVE)を講師に迎え、南部地域に伝わる「八幡馬」などの伝統的踊りからポップスの創作盆踊りまで、障がいの有無やダンス経験を問わず老若男

女が楽しめる。盆踊りの合間にショータイムを行うほか、楽器やうちわなどをつくる事前ワークショップも開催予定(9月6日)。
[日程]9月13日
[会場]八戸ポータルミュージアムはっち

●宮城県大河原町

えずこホール
〒989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004 荒川翼
<https://www.ezuko.com>

あそてん～あそびの天才2025～

いらなくなったおもちゃを使って地域の人やモノの交流を図る「かえっこバザール」を軸として、さまざまな参加型プログラムが開催される。劇場にたくさんのおもちゃが散りばめられるほか、楽器・演劇・ダンス体験や水消火器的当てゲームなどを遊びながら学べる。今年は特別ゲストとして「かえっこ」の仕組みを考案した美術家の藤浩志も参加。
[日程]9月21日
[会場]えずこホール(仙南芸術文化センター)、ヒルズはねっこアリーナ



昨年の「かえっこバザール」

●秋田県秋田市

ミルハスを核としたにぎわい創出実行委員会
〒010-8572 秋田市山王3-1-1
Tel. 018-860-1529 松江晴香
<https://akita.jp/nigiwai/>

Akita Dream Brass Concert

秋田県出身や東北各地で活躍しているプロ演奏家と、県内の学生など総勢約100人が共につ

くり上げる1日限りの吹奏楽団「あきたドリームプラス」による、あきた芸術劇場ミルハス開館3周年記念コンサート。プロ演奏家による事前指導や合奏練習を経て、大ホールを舞台に吹奏楽の名曲を披露する。

[日程]9月21日
[会場]あきた芸術劇場ミルハス

●山形県大石田町

大石田町町民交流センター虹のプラザ
〒999-4112 北村山郡大石田町緑町28
Tel. 0237-35-2094 大橋武司
<http://niji.town.oishida.yamagata.jp/>

大石田どきどきダンスフェスティバル3

町内でアーティストインレジデンス事業を行っている大橋武司、久保田舞、椛島一が企画。オリジナル音楽劇のほか、町内外ダンスクラブ、ベルリンからのゲストなどのパフォーマンスも行われる。今年9月中はホール以外でも、町内のさまざまな場所で各種芸術にふれられる取り組み「いいねがす おーいしまちなか文化まつり」も実施。
[日程]9月22日、23日
[会場]大石田町町民交流センター虹のプラザ ほか

関東

●茨城県小美玉市

四季文化館みの～れ
〒319-0132 小美玉市部室1069
Tel. 0299-48-4466 嶋田彩乃
<https://minole.city.omitama.lg.jp/>

0才からの参加型ファミリーコンサート

「みゅ～じっく☆すた～と」
市内中学生のプロデュースチームと共に企画した乳幼児も安心して楽しめるコンサート。「海の世界」をテーマに、音楽絵本やみんなで歌ったり動いたりして参加できる曲など、子どもたちが飽

▼ 今月の情報

アートセンター、アートクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

きずに鑑賞できる会場づくりに取り組む。絵本のリユース企画やぬりえ体験コーナー、協賛企業の出展ブースも展開予定。

[日程]9月7日

[会場]小美玉市四季文化館みの〜れ

● 埼玉県ふじみ野市

「ふじみ野で第九を!」実行委員会
〒356-8501 ふじみ野市福岡1-1-1

Tel. 049-262-9000 森川憲
(ふじみ野市総合政策部内)

<https://www.city.fujimino.saitama.jp/soshikiichiran/keiseisenryakushitsu/A/index.html>

ふじみ野市誕生20周年記念公演 〜ベートーヴェン交響曲 第9番 第4楽章「歓喜の歌」〜

ふじみ野市誕生20周年を記念した特別記念公演。「オールふじみ野」というコンセプトの下、市民企画会議によるアイデアを積極的に取り入れたイベントの開催や啓発品の制作にも取り組む。オーディションで選ばれた市内外の若手演奏家を中心に結成されたユース・オーケストラや120人以上の市民が参加する市民合唱団による「歓喜の歌」を堪能できる。

[日程]10月5日

[会場]ふじみ野ステラ・ウェスト

● 千葉市

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311 森啓輔
<https://www.ccma-net.jp>

開館30周年記念「未来/追想 千葉市美術館と現代美術」

現代美術をコレクションの核の1つとし、120もの現代美術展を開催してきた同館で、その歴史を振り返りながら、草間彌生、河原温ら国内外の作家による約180点を展示し、戦後美術の多

様な展開を紹介する。また、過去に開催した展覧会の再現展示や、漫画家の西島大介によるオリジナルゲームも体験可能。

[日程]8月2日~10月19日

[会場]千葉市美術館



展示の様子(草間彌生《最後の晩餐》ほか)

● 東京都豊島区

東京芸術劇場

〒171-0021 豊島区西池袋1-8-1

Tel. 03-5391-2111 矢作勝義
<https://www.geigeki.jp/>

芸劇大公開!

2024年9月より設備更新工事により休館していた東京芸術劇場がこの秋再開、1日限りのオープンデーを開催する。ホールでのパイプオルガンミニコンサートや4つのホールを巡る劇場ツアー、ギャラリーでの工作体験など屋内イベントのほか、劇場前広場では終日大道芸人によるパフォーマンスも実施。多彩なプログラムで劇場リオープンを祝う。

[日程]9月6日

[会場]東京芸術劇場、劇場前広場

● 東京都江東区

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1
Tel. 03-5245-4111 崔敬華

<https://www.mot-art-museum.jp/>

東京都現代美術館30周年記念展「日常のコレオ」

開館30周年を記念し、国内外で活動する幅広い世代のアーティスト約30名・組の実践を紹介する大規模国際展。各地の社会的、歴史的な文脈を起点とした絵

画や写真、インスタレーション、映像からパフォーマンスまで、現代美術の幅広い表現を紹介する。鑑賞者の参加と対話を伴うパフォーマンスやワークショップも数多く展開。

[日程]8月23日~11月24日

[会場]東京都現代美術館

北陸・中部

● 福井県大野市

COCONOアートブレイス

〒912-0081 大野市元町12-2
Tel. 0779-64-4848 伊藤富美

<https://www.cocono-art.jp>

顰嘔新作展

小コレクター運動の作家として大野に最も馴染みのある美術家・顰嘔の11点の小作品から成る新作《いろはにほへとちりぬる》を展示。同時に、フルクサスのメンバーの作品展示を行う。展覧会初日には、フルクサスのパフォーマンスなどを取り入れた「Now I know Ono ストリートフェスティバル」を開催する。

[日程]10月4日~2026年1月12日

[会場]COCONOアートブレイス

● 長野県長野市

長野県立美術館

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(城山公園内・善光寺東隣)

Tel. 026-232-0052 池田淳史

<https://nagano.art.museum/>

公開制作vol.5

古橋まどか「野のさま」

作品の制作過程や完成を見られるプログラム。今回は長野県出身のアーティスト・古橋まどかが美術館に滞在し、信州の自然・季節・暮らしに焦点を当てて裾花川ほかから素材を集め、9月4日からの展示期間に向け制作している。タイトルは神様や仏様などを指して用いられる方言「ののさま」にちなんだもの。さまざまな要素から信州の野の様が紡がれる。

[日程]6月28日~9月28日

[会場]長野県立美術館



古橋まどか《焚く、枯ぶ、渡る》(部分) 2022年

● 静岡市

静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

Tel. 054-263-5857 貴家映子

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

これからの風景 世界と出会い なおす6のテーマ

約40年にわたってコレクションしてきた風景画・風景表現をこれまでとは異なる切り口で紹介する展覧会。風景画を鑑賞者の経験にも結び付けやすい、記憶・鑑賞・観光・場所・環境・対話の6つのテーマでとらえ直す。そのうちの鑑賞の章では、触ってわかる図や絵、音声ガイドを通し、障害の有無にかかわらず、視覚以外の感覚を通して風景画を楽しむ方法を提案する。

[日程]7月5日~9月23日

[会場]静岡県立美術館

● 愛知県高浜市

高浜市やきものの里かわら美術館・図書館

〒444-1325 高浜市青木町9-6-18

Tel. 0566-52-3366 竹下和貴子
<https://www.takahama-kawara-museum.com/>

美術館30周年記念企画展

「トキントキンの時代」

1977年、高浜市旧市庁舎の陶製壁画制作に関わった作家たちの作品を中心に紹介する展覧会。「トキントキン」は愛知県の方言で「とがっている状態」を

意味し、作家の挑戦的な姿勢を象徴している。作品と彼らが携わった市内モニュメントを通して、新たな表現への模索と地域の伝統を取り入れた創作の軌跡を振り返る。工作体験やゲストトーク「タカハマの草の根」(全5回)も開催。

[日程] 7月26日～10月19日

[会場] 高浜市やきもの里かわら美術館・図書館

近畿

●三重県津市

津市久居アルスプラザ

〒514-1136 津市久居東鷹跡町246

Tel. 059-253-4161 土井玲子

<https://www.tsuhisai-ars.jp/>

きらめき・アート2025

自閉症をはじめ、障がい者の比類のない優れた芸術活動を支援し、彼らの持てる力をエンパワメントする場の提供・企画等をする活動を行ってきた「きらめき・アート」。プロジェクト創設10周年を迎える今年の企画展では、7名のアーティストによる絵画をはじめ、版画や書、彫塑などの個性あふれる作品が展示される。

[日程] 9月26日～29日

[会場] 津市久居アルスプラザ

●京都府亀岡市

亀岡市環境政策課

〒621-0005 亀岡市保津町下中島59-1

Tel. 0771-21-9340 松本和磨

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/prcenter/index-2.html>

みんなで作るエコアートデイ～Circular Kameoka Lab 1周年記念イベント～

環境先進都市を目指す亀岡市の取り組みを発信する交流拠点としてオープンしたCircular Kameoka Lab(サーキュラーかめおかラボ)の開館1周年記念

イベント。使用済みパラグライダーの端切れを活用して風のオブジェやアクアリウムの壁面装飾を創作するワークショップのほか、「かめおか霧の芸術祭」との協働で市民と共に制作した、保津川を舞台にした紙芝居の発表会など、環境(エコ)と芸術(アート)の体験企画が多数行われる。

[日程] 8月30日

[会場] Circular Kameoka Lab

●大阪府吹田市

吹田市文化振興事業団

〒564-0041 吹田市泉町2-29-1

Tel. 06-6386-6333 門川翔

<https://maytheater.jp/>

メシアター開館40周年記念『MOTHER—君わらひたまふことなかれ』

メシアター開館40周年を記念して、関西ゆかりの演劇人が集結して舞台を上演。明治42年から大正2年の与謝野晶子夫妻と文人たちの青春を描いたマキノゾミの名作を内藤裕敬が演出。妻として、母として、作家として懸命に生きた偉大な“MOTHER”与謝野晶子をキムラ緑子、夫・鉄幹を升毅が演じる。関西演劇界を牽引してきたマキノと内藤が作・演出でタッグを組むのは初めて。

[日程] 9月10日～14日

[会場] 吹田市文化会館メシアター

●兵庫県伊丹市

伊丹アイフォニックホール

〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30

Tel. 072-780-2110 西村茜

<https://aiphonic.jp/>

ジャワ島の影絵人形芝居「ワヤン・クリ」『カルナの結婚』

伊丹アイフォニックホールでは1991年の開館当初から「世界の民族音楽」事業を展開し、2011

年から「aiphonic地球音楽プログラム」として世界中の音楽や踊りを届けてきた。今回は、インドネシアの伝統的な影絵人形芝居「ワヤン・クリ」を、本格的なガムラン音楽の演奏とともに、古代インドの叙事詩『マハーバーラタ』がジャワ島で独自に発展した物語を元にした本公演オリジナルストーリー・日本語で上演。

[日程] 8月30日

[会場] 伊丹アイフォニックホール

中国・四国

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121 松岡剛

<https://www.hiroshima-moca.jp/>

特別展「被爆80周年記念 記憶と物 —モニュメント・ミュージアム・アーカイブ—」

戦争や原爆の“記憶”と、美術作品をはじめとする“物”との関係をテーマにした被爆80周年記念展。広島市現代美術館が位置する比治山にかつてあった戦中の銅像やその作り手、戦後に再建された像、招聘アーティストによる作品やコレクションを通して、表現や制度を通して形成される戦争の記憶、当事者性、過去を継承する可能性について考える。

[日程] 6月21日～9月15日

[会場] 広島市現代美術館



葛谷楽(Spider's Thread: This Landscape) (2020) ©Gaku Tsutaja, Courtesy of Uterior Gallery

●香川県高松市

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5-5

Tel. 087-822-0247 黛友明

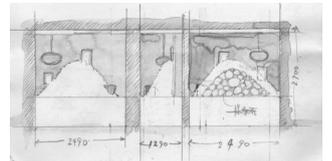
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmu-seum/>

小沢剛の讃岐七不思議

美術家・小沢剛の四国で初開催となる大規模個展。ミュージアムが収蔵する歴史・美術・民俗に関する膨大な資料や情報などから、小沢が独自の視点で「見るべき、あるいは知っておくべきモノ・コト」に着目し、そこから触発されて小沢が生み出した作品や実物の資料を組み合わせて展示。世代や時間など異なる視点が交差することで、讃岐の歴史・文化との新たな出会いを誘発する。

[日程] 8月9日～10月13日

[会場] 香川県立ミュージアム



小沢剛による展示構想ドローイング

●高知県高知市

高知県立県民文化ホール

〒780-0870 高知市本町4-3-30

Tel. 088-824-5321 濱口友章

<https://kkb-hall.jp/>

高知県立県民文化ホール・カムカムミニキーナ共同制作事業 しめんげき『幽霊塔』

高知県出身の文豪・黒岩涙香の翻案小説『幽霊塔』を、劇団カムカムミニキーナ主宰の松村武が脚色・演出するミステリー活劇。舞台上にアクティングエリアと客席を設け、照明・音響効果を最小限に抑えた“舞台上舞台”の空間で、俳優4人がセリフと身体表現を駆使した演出によって濃密かつダイナミックに物語を紡ぎ出す。

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 9月5日、6日
[会場] 高知県立県民文化ホール

九州・沖縄

● 福岡市
(公財) アクロス福岡
〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1
Tel. 092-725-9317 橋口良太
<https://acros.or.jp/>

アクロス・クラシックふえすた 2025

あらゆる世代がクラシック音楽を楽しめるフェスティバル。九州交響楽団などが出演するホールコンサートは小学生以下無料となっており、クラシックの名曲からゲーム音楽までさまざまな音楽が奏でられる。より近い距離で演奏家の息づかいを感じられる「フレンドリーコンサート」は入場無料、申し込み不要で本格派クラシックを堪能できる。バックステージツアーや公開講座形式の楽器クリニックなど、関連プログラム充実。

[日程] 10月4日、5日
[会場] アクロス福岡

● 宮崎県宮崎市
宮崎県立美術館
〒880-0031 宮崎市船塚3-210 (県総合文化公園内)
Tel. 0985-20-3792 小林美紀
<https://www.miyazaki-archive.jp/bijutsu/>

第2期コレクション展 「たのしむ美術館」

マグリットやダリ、瑛九などの作品の見方、技法などをわかりやすく紹介し、見ただけでは気づきにくい作品の魅力を楽しむ鑑賞することができる展覧会。体験コーナーやフォトスポットが設けられ、子ども向けと大人向けの鑑賞ツアーもそれぞれ開催している。また、宮崎県立美術館の開館30周年企画を紹介するコーナーも開設。

[日程] 7月13日～10月7日
[会場] 宮崎県立美術館

● 宮崎県延岡市、門川町
門川ふるさと文化財団
〒889-0616 東白杵郡門川町南町6-1
Tel. 0982-63-0002 竹原旺治郎
<https://kadogawa-bunka.net/>

ジャズと遊ぼう! コンサート 「0歳からの音楽会」

門川町、延岡市、日向市、旭化成に属する4つの文化団体が連携し、令和4年度から共同で主催する「0歳からの音楽会」。4回目となる今年は、県内在住のジャズバンドメンバーを迎え、からだを使ったりリズム遊びや、音楽に合わせた絵本の読み聞かせなど、0歳から楽しめるコンサートを門川町と延岡市の2会場で開催。
[日程・会場] 9月27日：門川町総合文化会館、28日：野口遵記念館

講座・シンポジウム

西尾市民文化芸術活動コーディネーター育成講座

愛知県西尾市を文化芸術で盛り上げようと、公立劇場の役割を理解し、文化芸術活動を実行するための運営手法を学ぶ全8回の講座を開講。企画や広報、舞台技術などの各分野の一線で活躍する講師陣から、ワークショップを中心に多面的に学ぶことができる。事業運営や広報実務、舞台実習等を通して、西尾市の文化芸術を支える人材を育成する。

[日程] 10月5日～2026年3月29日
[会場・問い合わせ] にしん文化会館 茶々っとホール

〒445-0877 西尾市山下町泡原30
Tel. 0563-54-5855
<https://hall.nishiobunka.jp/>

特集 アートプロジェクト・芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介します。
※開催地の北から順に掲載。
☑は会場、📍は問い合わせ先です。
(➡は地域創造助成事業)

● 北海道白老町 9月6日～14日 飛生芸術祭 2025

旧飛生小学校の木造校舎と、その裏に広がる「飛生の森」を舞台に、2009年から毎年秋に開催されている、アートと地域をつなぐ芸術祭。森全体を一つの作品ととらえ、森と共に変化していく作品＝森づくりを、年月をかけて創造してきた。今年は、ダンスや音楽などのパフォーマンスを交えた「森のガイドツアー」を開催する。
☑飛生アートコミュニティ
📍飛生芸術祭実行委員会
contact@tobiu.com



石川大峰 (topusi (トプシ))
Photo: Ryoichi Kawajiri

● 仙台市 10月3日～5日 仙台クラシックフェスティバル 2025

「誰でも気軽に楽しめるクラシック音楽のフェスティバル」として2006年に誕生し、19回目を迎える「せんくら」。今年は3日間で77公演を開催し、クラシックやジャズ、童謡など多岐にわたるジャンルや、仙台・宮城ゆかりのアーティストから初登場のアーティストまで、新たな出会いを通して音楽を楽しむことができる。関連企画として、市民参加型の「地下鉄駅コンサート」も開催。

☑日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ 21、太白区文化センター ほか
📍仙台市民文化事業団(せんくら事務局) Tel. 022-727-1872



地下鉄駅コンサート ©せんくら事務局

● 群馬県中之条町 9月13日～10月13日

国際現代芸術祭 中之条ビエンナーレ2025

美しい里山が広がる群馬県北西部の中之条町で開催される国際現代芸術祭。アーティストは特色ある山村地域で滞在制作を行い、その成果を芸術祭で発表する。第10回を迎える今回は、国内外から約150組の多分野のアーティストが参加。温泉街や木造校舎など町内各所での作品展示、演奏やパフォーマンスを行う。

📍群馬県中之条町 町内各所
📍中之条ビエンナーレ事務局
Tel. 0279-75-3320
(平日9:30～17:00)



大矢りか《光ノ山へ》
Photo: Kazuyuki Miyamoto

● 千葉市 9月19日～11月24日 (集中展示・発表期間)

千葉国際芸術祭2025
3年に1回開催されるトリエンナーレ方式で本年度から始まる芸術祭。総合ディレクターに中村

政人(アーティスト/東京藝術大学教授)を迎え、「ちから、ひらく。」をコンセプトに市民の創造力の開花を目指して開催される。千葉市近郊在住の専門人材が企画運営を担い、国内外32組のアーティストによる参加型アートプロジェクトを実施。

㊦千葉市内各所

㊦千葉国際芸術祭実行委員会事務局(千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課内)

Tel. 043-245-5961



西尾美也によるアートプロジェクト「まちばのまちばり」

●東京都豊島区 9月14日、15日(メインプログラム)

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2025
(サラダ音楽祭)

「Sing and Listen and Dance～歌う!聴く!踊る!」をコンセプトに、ファミリー・子ども向けの音楽企画や、障害のある方も一緒に鑑賞できるコンサートなど、クラシック音楽をもっと身近に感じ、誰もが楽しめるイベントが盛りだくさん。メインプログラム以外にも、多摩・島しょ地域での演奏会など、年間を通して多彩なプログラムが展開される。

㊦東京芸術劇場ほか池袋周辺
㊦サラダ音楽祭事務局(株式会社アクセスプログレス内)

Tel. 03-6704-9342

(平日10:00～18:00)

●横浜市 9月11日～10月13日
黄金町バザール+上大岡バザール2025「通過中 We Meet Along the Way」

「黄金町バザール」は、2008年

にスタートしたアートによる街の再生に取り組むフェスティバル。今年は黄金町エリアと京急線上大岡駅(京急百貨店、ウィング上大岡)を舞台に、国内外約25組のアーティストが参加。ガイドツアーやアーティストによる自主企画展示も実施され、アーティストと地域が展示会を通じてつながる可能性に焦点を当てる。

㊦京急線日ノ出町駅、黄金町駅間の高架下スタジオ、京急百貨店ほか

㊦黄金町エリアマネジメントセンター Tel. 045-261-5467



令和6年度の様子

●新潟県十日町市、津南町
7月19日～11月9日

大地の芸術祭通年プログラム
「越後妻有 2025 夏秋」

200点超の作品が公開される、大地の芸術祭通年プログラム。越後妻有里山現代美術館(MonET)では、4名の作家の作品を集めたBankART1929のディレクションによる企画展「こたえは風に吹かれている」を開催。秘境・秋山郷の廃校をよみがえらせた《アケヤマー秋山郷立大赤沢小学校》では、作家のリサーチ活動に基づき、「山の暮らしの技術や知恵を学ぶワークショップ」を多数開催予定。



「こたえは風に吹かれている」
Photo by Nakamura Osamu

㊦新潟県越後妻有地域(十日町市、津南町)

㊦大地の芸術祭実行委員会事務局 Tel. 025-757-2637

●福井県坂井市

9月26日～28日、10月4日、5日

湊ノ芸術祭2025

江戸時代から明治にかけて栄えた港町・三国湊を舞台に、まちに存在する資源を新たな視点でとらえ、まちの魅力を地域内外の人たちと共有することを目的に、アートを通じてまちを巡るフェスティバル。3回目の開催となる今年のコネクトは「まちとダイニング」。食べるという行為だけでなく、その周囲に広がるつながりや出来事にも目を向け、アーティストが「ダイニング」という場の可能性を表現する。

㊦坂井市三国湊エリア

㊦湊ノ芸術祭実行委員会
minato.artfes@gmail.com



●長野県御代田町

8月2日～9月30日

浅間国際フォトフェスティバル2025 PHOTO MIYOTA

浅間山の裾野に広がる御代田の自然の中を散策しながら、屋内外に展示される写真作品を五感で楽しむことができるフェスティバル。昨年は約3万3,000人が来場し、この数年間で御代田町にはクリエイターほか移住者も増えている。町内の公園や農家直売所にも展示する予定で、回遊性の高いフェスティバルを目指す。週末にはワークショップやマルシェも実施。

㊦MMoP(御代田写真美術館)

㊦浅間国際フォトフェスティバル2025 PHOTO MIYOTA実行委員会 Tel. 0267-41-0436

●愛知県名古屋市、瀬戸市

9月13日～11月30日

国際芸術祭「あいち2025」
灰と薔薇のあいまに

多様なバックグラウンドをもった60組を超えるアーティストが参加する国際芸術祭。美術館や劇場、まちなかを舞台に、現代美術の作品展示やパフォーミングアーツ、ラーニング・プログラムなどが実施され、ジャンルを横断しながら多様なアートの表現を発信する。県内4つの芸術大学との連携プロジェクトや巡回展示なども予定され、県内各所で広く展開される。

㊦愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか
㊦国際芸術祭「あいち」組織委員会 Tel. 052-971-3111

●滋賀県近江八幡市ほか

9月20日～11月16日

BIWAKOビエンナーレ2025
“流転～FLUX”

今年で11回目となる、琵琶湖を中心に広がる滋賀県の近江八幡旧市街地を舞台にしたアートフェスティバル。今回は国内外のアーティスト約70組が参加。空き家や古民家を会場として活用した「地域再生」も目的のひとつであり、町の歴史と芸術が重なり合う作品展示によって、五感をフルに使った鑑賞体験を楽しむことができる。

㊦近江八幡旧市街地、長命寺、沖島



江頭誠「ブランケットが薔薇でいっぱい」

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

■ BIWAKOビエンナーレ実行委員会 Tel. 0748-26-5832

● 京都府木津川市
9月27日～10月13日

木津川アート2025「とびら」

2010年に始まり、14年からビエンナーレとして開催されている地域芸術祭。9回目となる今回は「とびら」をテーマに、木津川市外にもエリアを拡大。さまざまなジャンルの招聘アーティストの作品が日常のまちなかに出現する。また、けいはんな万博にも参画し、木津川で育まれた人や歴史、文化と、学研都市・けいはんなの最先端分野が繋がる、ここでしか見られない景色と出合える。

■ 木津川市役所周辺、けいはんな精華・西木津地区

■ 木津川アートプロジェクト事務局 Tel. 0774-39-8191

● 奈良県河合町ほか
9月1日～11月30日

奈良県みんなでのしむ大芸術祭

障がいの有無や性別・年齢にかかわらず、誰もが「たのしむ」ことのできる参加型の芸術祭。多様なジャンルのアーティストがパフォーマンスを行うステージイベントや、親子で楽しめるワークショップ、社寺や町家などでのアート展示など、「みんな」のコンセプトを体現したイベントが3カ月にわたって県内各所で繰り広げられる。

■ 奈良県営馬見丘陵公園、奈良県橿原文化会館 ほか

■ 奈良県みんなでのしむ大芸術祭実行委員会事務局
Tel. 0742-27-8488

● 和歌山県九度山町
9月14日～10月26日

くどやま芸術祭2025

世界遺産や真田幸村ゆかりの史

跡など、豊かな歴史遺産を有する和歌山県北部の九度山町で、2016年より「町がまるごと美術館に」を掲げて2年に一度開催されている芸術祭。今回は、町のさらなる飛躍を目指し、国内外問わず活躍する一線級のアーティストによる約300点の作品を展示。町を巡りながら芸術と歴史文化の融合を体感できる。

■ 九度山町各所

■ 九度山町まちなか活性化協議会(くどやま芸術祭実行委員会)
Tel. 0736-54-2019



くどやま芸術祭2023(はやしだちかによる巨大絵画)

● 鳥取県鳥取市ほか
9月20日～10月12日

BeSeTo演劇祭29+鳥の演劇祭18

鳥取市鹿野町の鳥の劇場を拠点に開催している「鳥の演劇祭」が、今年は日本・中国・韓国の優れた舞台が集まる「BeSeTo演劇祭」と同時開催。日中韓共同制作「ガラスの動物園」の滞在制作や、町内を周遊する演劇など、4カ国から18作品が集結。米子市や倉吉市でもサテライト上演が行われるほか、シンポジウムなど多彩な企画が展開される。

■ 鳥の劇場、鹿野町内各所、サテライト会場(米子市公会堂、とりぎん文化会館、鳥取県立美術館)



“周遊型演劇”鹿野タイムスリップツアー「チドリ」の夢2024(演出:中島諒人)

■ BeSeTo演劇祭29+鳥の演劇祭18問合せ窓口(鳥の劇場内)
Tel. 0857-84-3612

● 岡山市 9月26日～11月24日
岡山芸術交流 2025

2016年から始まった、岡山市で3年に一度開催する現代美術(コンセプチュアルアート)の国際展。岡山城・岡山後楽園周辺エリアのさまざまな歴史文化施設等を会場に、世界的な現代アーティストらの作品が展示される。徒歩で回遊できるコンパクトな会場配置が特色で、現実と想像が自然に交わる岡山の都市空間の街歩きを楽しむことができる。

■ 岡山城・岡山後楽園周辺

■ 岡山芸術交流実行委員会

Tel. 086-221-0033

● 広島県福山市、尾道市
10月4日～11月30日

ひろしま国際建築祭2025

「建築」で未来の街をつくり、子どもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションに掲げる建築文化の祭典。3年に一度の初開催となる今回は広島県福山市・尾道市の7会場で8展示を実施。丹下健三や磯崎新、安藤忠雄といった巨匠建築家から次世代作家の模型やドローイング、動画のインスタレーションを通して未来社会を考える。

■ 福山市、尾道市+瀬戸内エリアのサテライト会場

■ ひろしま国際建築祭 事務局
<https://hiroshima-architecture-exhi>



開催地のひとつ、建築家・長坂常が築110年の空き家をリノベーションした文化交流拠点「LLOVE HOUSE ONOMICHI」
Photo by Ryo Takatsuka

bition.jp/contact/
(問い合わせフォーム)

● 香川県直島町ほか
8月1日～31日(夏会期)

瀬戸内国際芸術祭2025

瀬戸内海の島々を舞台に3年に一度開催される国際芸術祭。春会期(4月～5月)に続いて行われる夏会期では、志度・津田エリアと引田エリアが新たに加わり、255作品・25イベントが出展され、21時までの夜間鑑賞も可能。重点プロジェクト「ベトナムプロジェクト」では、高松港を舞台に①マルシェ②現代美術展③シンポジウムを軸に、アート、工芸、デザイン、食を通じて、交流を深めるプロジェクトを展開。秋会期も開催される(10月3日～11月9日)。

■ 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島ほか

■ 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局

Tel. 087-813-2244

● 大分県別府市
9月27日～29日

Art Fair Beppu 2025

国内外から多くの観光客が訪れる温泉地・別府市を舞台に、気鋭のアーティストが集うアートフェアを開催。アーティストが会場に常駐し、対話して作品を購入するのが特徴で、過去2回の開催から、アーティスト数・会場面積ともに規模を拡大。世界に向けて発信することで、新たなアートマーケットを創出することを目指している。

■ 別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ

■ 混浴温泉世界実行委員会
Tel. 0977-22-3560

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館

「なつやすみの美術館15 美術の歴史と歴史の美術」



上：展示の様子/下：ジョージ・シーガル《煉瓦の壁ぞいに歩く男》を鑑賞する「こども美術館部」の子どもたち

● なつやすみの美術館15 美術の歴史と歴史の美術

[会期] 2025年7月12日～9月15日
[会場] 和歌山県立近代美術館 1階展示室

● 和歌山県立近代美術館

1963年開館の和歌山県立美術館を前身に、70年に県民文化会館内に開館した全国で5番目の近代美術館。94年に現在の場所に新築移転(設計:黒川紀章)。郷土の作家を主軸に国内外の作品約1万4,000点を所蔵。2011年から子どもと大人と一緒に楽しめるコレクション展「なつやすみの美術館」を開始。近年は現代アーティストとのコラボレーションによる展示も行う。

● 2つの「美術館部」

2013年の「なつやすみの美術館」から和歌山大学学生による鑑賞ガイド「たまごせんせいとわくわくアートツアー」を開始。15年に大学サークルとして正式登録した。16年から小学生対象の隔月の鑑賞会「こども美術館部」が始まった。宿題で来館していた生徒が大学の「美術館部」に入ったり、美術館部の卒業生が教員になって生徒を連れて来るなど、循環的なサイクルが生まれている。

厳しい運営状況にある地方美術館において、自館コレクションの活用と地域との連携は重要性を増している。約1万4千点を収蔵する和歌山県立近代美術館(1970年開館、94年現在地に移転)では、2011年から毎夏、子どもも大人も楽しめるコレクションを主軸とした展覧会「なつやすみの美術館」を開催。学校教員や大学生が主体的に関与し、美術館を拠点にさまざまな人がつながる展覧会へと育ってきた。7月19日、20日に「なつやすみの美術館15 美術の歴史と歴史の美術」の現場取材した。

●
本展の魅力は、美術作品を題材に伝えたいことを、普段美術館になじみがない人にもわかりやすく、展示やパネル、キャプション、ワークシートなどで明快に打ち出している点だ。例えば会場入口には、1枚の絵画とパネルを展示。描かれているのは、ロシア風の建物やさまざまな風貌の人々、右下の地図には日本語の文字も見える。高井貞二が満州国時代のハルビンを描いた《エミгранトの街》だ。パネルには、「なにがわかるかな?」という文言とともに、作品をじっくり見て時代や場所を想像するよう促す文章やキャプションの見方も掲載。この1作品で、展覧会全体を見る視点をつくる見事な導入である。

続く「美術の歴史?」のコーナーでは、冒頭に大きさもスタイルも異なる人物画18点を壁面一杯に一目で見渡せるよう展示。好みの作品の制作年や作家名をたどるうちに美術の歴史が浮かび上がる。さらにモチーフやポーズの似た作品の比較展示や、西洋古典絵画の模写・引用を通して、日本と西欧の美術史上の関係性を伝える展示もあった。

「日本と『外国』」と「歴史の美術?」のコーナーでは、敗戦前の日本や日本が領有していた「外地」を描いた絵画や雑誌、そして戦争と関わる作品が並ぶ。関東大震災後や南洋の風景、和歌山から移民として渡米したヘンリー杉本や石垣栄太郎が見たアメリカ、ジャスパー・ジョーンズ《旗》、間島領一《日の丸弁当》、戦後に死刑判決を受けたBC級戦犯の遺書を題材にした太田三郎《POST WAR 72 世紀の遺書》など、

時代やジャンルも多様な作品が「歴史」との結びつきを示す。

特筆すべきは、学芸員と和歌山美術館教育研究会が協働で制作するワークシートだ。同会は、美術館を活用した教育の実践を目的に学校教員や教職を目指す学生、関心ある人が集う場として2011年に発足。13年から学芸員と協働でワークシートを作成し、近隣の中学校では夏休みの宿題にも採用されている。

制作にあたっては、まず学芸員から展覧会の方向性と大まかな出品リストを提示。月2回程度集って議論するなかで出品作や展示構成をまとめ、ワークシートの内容を深めていく。今年には社会科教員も加わり、年表なども盛り込まれた。前述した展覧会会場入口のパネル展示も研究会での議論から生まれたものだ。

学芸員の青木加苗さんは、「作品の意味も時代で変わり、鑑賞教育も背景となる歴史の視点があればさらに深められる。美術と社会科の視点を重ねることで、今の時代に生きるあなたは どう見るかを問いかけたかった」と語る。

また同館では、2016年から小学生を対象とした隔月の鑑賞会「こども美術館部」を開催。20日には別の展覧会場で7人の小学生が参加して実施されていた。扉のある壁沿いに歩く男を写したジョージ・シーガルの等身大彫刻を導入に、扉を開けたら他の作品世界に入ったという「設定」で、子ども自身が作品を選び、その理由をみんなに話すという対話型鑑賞だ。こども美術館部の「卒業生」で、今は美術館のサポーターとして参加する中学生の山東大地さん、阿部智実さん、宮脇琢磨さんは、「作品から想像を自由に広げることができるのが面白い」「学校の歴史の授業に出てきた時代の作品があると嬉しい」「展示替えがあれば行くのが当たり前になっている」と、美術館が生活と地続きになっている様子を教えてくれた。

和歌山大学にも「美術館部」があり、多様な人が出会う機会にもなっている。和歌山県立近代美術館は、地域の人々と共に美術館の可能性を着実に広げている。

(アートジャーナリスト・山下里加)